

4 小笠原教第 26 号  
令和 4 年 4 月 5 日

小笠原村立学校長 殿

小笠原村教育委員会教育長  
桐川 勲  
(公印省略)

## 令和 4 年度 授業改善推進プランの提出について（通知）

小笠原村教育委員会では、各学校が児童・生徒一人一人の実態を把握し、適切な指導と評価に生かせるよう学力調査を行いました。当該調査の結果並びに日常における児童・生徒の観察等から総合的に分析し、児童・生徒一人一人のニーズに応える適切な教育的支援を行うに資する授業改善推進プランの作成を依頼します。

記

### 1 目的

日々の授業改善を通して、児童・生徒一人一人のニーズに応える適切な教育的支援を行う。

### 2 提出書類

授業改善推進プラン

### 3 様式等

A4 縦型とする。様式等については、【別紙1】【別紙2】を参照のこと。

### 4 提出方法及び期限

小笠原村教育委員会指導主事へ電子メールで 9 月 30 日（金）までに提出する。

### 5 留意点

#### （1）令和 3 年度の取り組み状況に関する総括

各種学力調査、学校評価、家庭学習アンケート等の結果を分析し、経年の変化をもとにした各校の現状及び標題の件に係る成果と課題について記載する。

#### （2）授業改善に向けた取組について

小笠原村教育委員会教育目標実現のための授業改善に関する取組の重点について、学校全体で共通して取り組む事項等を具体的に記載する。

#### （3）各教科等における授業改善プラン

【別紙2】を参照し、各学年の各教科等について作成する。

#### （4）公開について

保護者会等において本プランの実施状況等について説明する機会を設定するなど、在籍児童・生徒の保護者に適切な方法で周知すること。併せて、期日に提出した後、教育委員会事務局の承認を得た上で、各校ホームページにおいて公開すること。

ただし、その場合においては、個人情報等が類推されることのないよう十分留意すること。

## 小笠原村立〇〇〇学校令和4年度授業改善推進プラン

小笠原村立〇〇〇学校  
校長 〇〇 〇〇

### (1) 令和3年度の取り組み状況に関する総括

- ※注1 各種学力調査や家庭学習アンケート、学校評価等の結果をふまえ、具体的な数値やグラフなどを用いて、標題に係る学校全体の現状を具体的に総括する。
- ※注2 総括する項目の中に、昨年度までの実践に関する成果と課題を入れる。
- ※注3 成果と課題については、経年の変化が分かるよう留意する。
- ※注4 項立については、特別な指定を行わない。

### (2) 授業改善のための取組について

#### 小笠原村教育委員会教育目標実現のための授業改善に関する取組の重点

##### ○ 授業UDの徹底

→ 「わかる」から「できる」を**体感する授業**の推進

「わかった」

##### 【指導と評価の一体化】

→ 「できた」

→ 「やってみたい」「試してみたい」「調べてみたい」

##### 【体験活動・家庭学習等】

→ 「できるかな？」

→ 「これにも使える！」「あれにも使える！」 = (わかった)

→ 「できた」

→ 「やってみたい」…

→ 「できるかな？」

→ …

##### 【発展的内容・関連する単元や他の教科等・実生活等】

- ※注1 「① 課題の要因」として、(1) で明らかになった教育目標を実現する上での課題の要因について、(1) で用いた各種調査の結果等から分析し、明らかになったことを記載する。

- ※注2 「② 学校全体で取り組む事項」として、①で明らかになった課題を改善するための具体的な取組事項を記載する。その際、課題改善のための視点として、次の各項目に対する事項を記載する。

- ・「学習指導の充実を図るための方策」

- ・「『指導と評価の一体化』の実現を図るための方策」

- ・「義務教育9年間の学びの連続性を意識した小中一貫教育推進の方策」

### (3) 各教科等における授業改善推進プラン

- ※注1 【別紙2】の様式をもとにしてA4用紙1枚に納まるよう作成し、添付する。

- ※注2 【別紙2】の様式については、それぞれのセルの高さは指定しない。

- ※注3 【別紙2】の4~6については、年度末に記入する。

## 〈授業改善推進プラン 令和4年度第〇学年 ○〇科〉

## 1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

※注1 令和4年度の各種調査等の結果から当該教科の課題を分析し、明らかになった内容について具体的な数値等を用いながら記載すること。

※注2 具体的な数値を用いる際には、経年の変化が読み取れるように配慮すること。

※注3 課題を示す際の文末表現として、「一できない。」という表現は極力避けること。

## 2. 課題改善に向けた取組状況

## (1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

※注1 令和2年度に策定された当該学年の授業改善推進プランより、1で挙げた課題と関連する項目について転記する。

(令和2年度策定の授業改善推進プランをもとに令和3年度中に実践した成果の一部として、令和4年度の各種調査結果等が表出しているため。)

※注2 例えば、令和4年度第4学年国語科の授業改善推進プランを作成する場合には、令和2年度第2学年国語科の授業改善推進プランを参照すること。そのため、学校種を跨いだり、該当の授業改善推進プランがなかったりする場合もある。

※注3 令和2年度に当該の授業改善推進プランが策定されていない、または、策定された当該の授業改善推進プランに該当する項目がない場合は、その事実を記載する。

## (2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

※注1 (1)に転記した内容と関連する工夫等について記載する。

※注2 (1)※注3に該当する場合は、現在実践している当該の工夫等のうち、特筆すべき事項を取り上げ、その工夫等の実際について具体的に記載する。

## 3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

## &lt;方策&gt;

## &lt;検証方法&gt;

※注1 1で挙げた課題と、2(1)(2)に記載された内容に鑑みた方策とする。

※注2 方策と検証方法が呼応するように記載し、方策は2つまでとする。

※注3 検証方法については、「指導と評価の一体化」の視点に立ち、具体的な時期や方法、目標値等を記載する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

## &lt;成果&gt;

※注1 検証結果をもとに、成果と課題に分けて、具体的な数値を用いながら端的に記載する。

※注2 方策が複数ある場合は、総括した形で記載する。

## &lt;課題&gt;

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

※注1 4で成果を得られた方策は、1で挙げた課題を改善する有効な手立てとして次学年で確実に実施できるよう、具体的な単元名等を挙げてその実施方法を記載すること。

※注2 4で課題とされた事象については、次年度の実践で改善できるよう、3で挙げた方策の代案を提案する形で、具体的な単元名等を挙げてその実施方法を記載すること。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

※注1 5に記載した事項を1年間取り組むことで期待される児童(生徒)の姿を、1で記載した課題に対応させながら具体的に記載する。